

道路用語辞典

日本道路協会

編

道路用語辞典

日本道路協会
編

丸善株式会社

序

わが国の道路整備は、近時飛躍的に促進され、わが国の経済成長と地域開発に貢献してきたことは、広く認められるところである。また一面社会的に種々複雑な問題を派生している。したがって、道路に関する情報は、テレビ、ラジオあるいは新聞紙上にしばしば登場しており、いわゆる道路用語というものが、一般社会において広く使われ、したがってその正確なる定義が求められている。

また一方、道路に直接関係する当事者の間においても、互いに情報を交換する上で、統一された定義の必要性が主張され、さらに近時国際的な交流が活発化するにつれ、それぞれの言葉にあてはまる外国語、あるいは外国語に対する適正なる訳語を定めておく必要が痛感されている。

以上のような理由から、当協会では、道路用語に関する辞典を編集することとし、建設省、日本道路公団、首都高速道路公団、大学、道路建設業界、建設コンサルタント、その他の関係各機関からの専門家よりなる道路用語編纂委員会を設けた。

委員会は、昭和44年以来推敲を重ね、ここに本書を発刊するはこびとなった。その間、当協会の各位からの熱心なご協力もあり、また委員諸兄の献身的な努力もあり、本書はまことに多数の方々の長年月にわたるご苦勞の結晶と言える。そのご協力とご努力に対しては、衷心

から敬意を表するとともに、その発刊を深く喜びとするものである。

本書が、単に道路関係者の座右の書として活用されるのみでなく、広く一般社会において道路用語を理解していただくために役立つならば、幸いこれに過ぐるものはないと考える。

昭和 51 年 10 月

日本道路協会会長 高 野 務

まえがき

わが国において、各分野の用語辞典が、数多く発刊されており、多数の人々によって活用されていることは、ご存知の通りである。土木工学の分野においても、土木学会において、さきに土木用語辞典の大冊が発刊されるなど、その例外ではない。

しかしながら、わが国における公共事業の一つとして大きな地位を占める道路全般の用語に関しては、その計画、設計、施工に関係者が多数従事あるいは関与しており、また政治、経済等の社会的分野における関係者も少なくなく、新聞紙上あるいはテレビ等のマスコミ関係、日常会話の話題に頻繁に登場するにもかかわらず、これを取りまとめて、一冊として解説した道路用語辞典なるものは存在していなかった。

たまたま、日本道路協会にて、この辞典を発刊の議がおこり、協会内に道路用語辞典編纂委員会を設け、昭和44年3月に第一回の委員会を開き、以後7年間数十回の会合の後、ここに漸く発刊の運びとなったものである。

そもそも道路用語辞典の性格は、道路の計画、設計あるいは施工に直接たずさわる道路関係者に役立つとともに、広く道路についての用語の意味を知ろうとする一般の方々をも対象としなくてはならない。

次に、この用語辞典は、日本語の用語の解説をするのみでなく、それに対応する外国語（本書の場合は、英語、ドイツ語およびフランス

語)を索引したり、あるいは逆に外国語に対する適当な訳語を索引するためにも使われる。

このようなことから、用語の選定には、日本道路協会会員の主だった方々に委員会案を2回にわたって査読して頂き、多数貴重なご意見を頂いた。その結果、用語の選定には、十分な検討を加えて頂き、われわれ委員のみでは到底気付かなかった点も大いに改めることができた。きわめて多忙な各位より、寸暇をさいて、本辞典の編纂のためにかくもご協力を頂いたことは、まことに感謝に堪えないところであり、ここに厚く謝意を表する次第である。

以上のように、まず用語の選定に多くの時間と労力とをかけたのであるが、その基本的方針として、次の項目をあげることができる。

(1) 道路用語としては、地質、土質、土工、舗装、橋梁、トンネル、幾何構造、付属施設、建設機械、測量といったハードな面のみに限らず、さらに広く道路計画、都市計画、地域計画、道路経済、道路環境、法律用語、行政用語、古語、俗語のようなソフトの面も含めて選定した。

(2) 用語の選定の精粗については、道路用語全体としての観点からバランスのとれたものとするように心掛けた。たとえば、橋梁の詳細部分について、すべてを網羅すれば、それだけで橋梁用語辞典ができ上がるということになるので、このような片寄りがおこらないように気を配った。このことは、建設機械の部分等についても同様で、特に道路工事用の特殊なもののみにとどめた。

(3) 道路関係主要機関名についても、その主だったものを採り上げ解説を加えた。

(4) 一般的な用語であっても、たとえば、道路の改築のように道路用語としての定義がはっきりしているものは採用した。

(5) 道路標識および路面標示も、道路用語として重要ではあるが、

個々のものを取り扱うのは、いたずらに用語の数を増やすのみであるから、警戒標識、禁止標識、案内標識等の総括的な用語にとどめた。

(6) 道路用植栽についても、個々の樹木の名称等を取りあげず、植栽の使われ方、すなわち、遮蔽植栽、防音植栽等を解説した。

次に、用語の解説であるが、これには百科事典のように長文の説明によって、それぞれの事項について広く解説する方法と、用語の定義を簡潔にわたえる辞典式の解説の方法とがある。本書は、あくまで辞典であるとの立場から、用語の定義を簡潔に与えることを旨とした。

このような主旨で執筆要綱を定め、各執筆者に依頼したが、作製された原稿の内容あるいは文体の統一については、全体をそれぞれ専門の13分野に分けて、その主査の委員に査読と調整とをお願いした。このような検討は、できるだけ多くの人を通して、違った角度から見るほど良いわけであるから、さらに、お互いに他分野についても、査読して頂いた。最後に全体を通じての査読、調整を、井上廣胤委員をお願いした。同委員の細心の注意と非常な努力によって、全体の調子がついたものとなったことに對し、特に感謝しなければならない。

また、上記の各分野を分担して頂いた各主査の委員にも、その労苦に對し感謝しなくてはならない。

なお、外国語のうち、英語は大部分執筆者によったが、フランス語は渡辺修自委員、ドイツ語は佐藤清委員が中心となって取りまとめた。なおドイツ語については、志賀リンデ夫人に、ドイツ人としての査読をお願いした。これらの方々の努力に對しても、感謝せねばならない。

以上のように、本辞典の作製にあたっては、単に執筆者の原稿を取りまとめたものではなく、何回にもわたって査読し、これによって追加したり、削除したり、あるいは補筆訂正した用語も少なくないことを付言しておきたい。

なお、個々の項目で説明するほかに、図表などにして取りまとめた

方が分りやすいと思われる項目は、巻末付録として取りまとめた。これも読者にとって便利で、役立つものと信ずる。

さて、ここに長年月にわたる編纂の仕事に一応の区切りをつけ、本書を送り出し、江湖の批判を迎うことができた次第であるが、委員一同の永年にわたるご協力に厚く感謝するとともに、本書が利用者各位のみならず、さらに広く、わが国の社会に役立つよう願ってやまない次第である。なお最後に、この仕事の取りまとめ、割付、校正、索引等の煩雑な仕事について苦勞をいとわずご盡力頂いた丸善株式会社出版部の担当者各位に対し、ここに謝意を表する次第である。

昭和 51 年 11 月

道路用語辞典編纂委員会

委員長 伊吹山 四郎

日本道路協会 道路用語辞典編纂委員会

委員長

伊吹山 四郎

委員

伊勢田 哲也

井上 廣胤

岩間 滋

国広 哲男

佐藤 清義

鈴木 忠義

田中 康之

南雲 貞夫

三浦 孝雄

山根 孟

渡辺 修自

荒牧 英城

大川 敏

塩井 武

溝口 忠

矢島 隆

市原 薫

今西 誠也

春日屋 伸昌

今野 博吉

沢田 健淳

関 淑郎

永井 喜一郎

新野 繁護

宮岡 昭雄

吉岡 昭雄

飯島 尚

佐藤 本次郎

松井 邦彦

光岡 毅

幹事

荒牧 英城

大川 敏

塩井 武

溝口 忠

矢島 隆

飯島 尚

佐藤 本次郎

松井 邦彦

光岡 毅

(50音順)

道路用語辭典執筆者一覽

青安磯井今大岡尾加川城熊小近佐塩島菅高田長南野樋福藤本松宮矢山横	沼崎野上西保崎仲藤口処谷島藤塚田原橋中友雲山見口本田原塚島下山	英裕二廣誠和治太雄求元圭本公巖洋康成貞恵忠益宜峯吉宣功	明裕郎胤也夫義章重一行伸二紀郎一乃捷之樹夫弘彦寛夫史生信隆博一	朝飯市伊岩太岡鹿金川久栗小佐澤塩嶋鈴高田中沼野肥藤松水村保山吉	倉島原山吹問田本島沢村案本島伯野津木見村田村木田原井谷上田根岡	肇尚薰四郎滋実一武司道行彦平一男夫臣範博人夫郎正修修稔彦則雄紀孟雄	足池伊今上大奥春日金木国桑後座沢志進関竹千永根長平藤布松三村山山渡	立村藤井野野屋安倉広原藤親田賀内田康本谷嶋田施崎谷田川村辺	義雅豪秀裕俊晴伸公正哲啓紳勝健哲義昌義正大洋隆朝信修	雄司誠吉康幸彦昌造美男三郎喜吉明美淳人平進匠明二一喬浩裕生吾自	荒石井今大大奥加鎌北久占駒佐塩柴末関田寺中野原福藤堀松満森山横	牧橋上田城平野藤田村賀田藤井田吉崎崎山田田江富田山川内	英正啓忠喜正精一市莊泰敬幸高興正允正圭邦博泰清正明	城穂一徹士男和晴一郎之一清武博一肇一省之一彦正隆興生喬治仁明
----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	----------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-----------------------------	---------------------------	--------------------------------

(50音順)

凡 例

内容・構成・表記法

- (1) 本辞典の構成は、用語の解説、付録、英語索引（英和对訳）、独語索引（独和对訳）、仏語索引（仏和对訳）の各部門から成る。
- (2) 本辞典は小項目方式の記述による。
- (3) 見出語の表記はひらがな（外来語はカタカナ）書きとし、漢字まじりの表記を（ ）内に付記した。その際は当用漢字による表記とし、必要に応じて当用漢字以外の漢字も使用した。
- (4) 学術用語の表記は、原則として各学会で用いられているものに従った。学会により表記の異なる場合等は編纂委員会の統一見解により表記した。
- (5) 項目は50音順に配列した。
 - ① 清音、濁音、半濁音の順にする。
 - ② 促音、拗音は直音のあとにおく。
 - ③ 長音のある場合は、その部分に長音のない語のあとにおく。
 - ④ 外国人名など固有名詞の表記は、原則としてその国の発音により、できるだけそれに近いと思われる表現を用いた。その際、理化学辞典（岩波書店刊）を参考にした。
 - ⑤ アラビア数字、ローマ字の表記は次の読みに従い配列した。

0 レイ、1 イチ、2 ニ、3 サン、4 シ、5 ゴ、6 ロク、7 シチ、8 ハチ、9 ク、10 ジュウ

Aa エー Ee イー Ii アイ Mm エム Qq キュー Uu ユー Yy ワイ

Bb ビー Ff エフ Jj ジェー Nn エス Rr アール Vv ブイ Zz ゼット

Cc シー Gg ジー Kk ケー Oo オー Ss エス Ww ダブリュ

Dd ディー Hh エッチ Ll エル Pp ピー Tt ティー Xx エックス

外 国 語

- (6) 各用語（見出語）の外国語は、英・独・仏の順に記してある。米と書いてあるのは、米語を示す。
- (7) 独語、仏語には性別、単・複の区別を（ ）内にイタリック体で示した。

説 明

- (8) 見出語が同一であっても内容が異なる場合は、見出語のあとに「……の」と付記して別途解説をした。
- (9) カッコ類および記号は次のように用いた。
- ① () 見出語を漢字表記する場合に用いた。
 - ② 【 】 カッコ内の文字、言葉を省略してもよい場合に用いた。
 - ③ [] 見出語の場合は(8)を参照、解説文・図表中では単位を表わす。
 - ④ = この記号の次に示す用語(見出語)と同じ意義であり、説明はその見出語を見よということを示す。
 - ⑤ ⇨ この記号の次に示す用語(見出語)にその説明が与えられているので、その見出語を見よということを示す。
- (10) *を左頭部に付した用語は、本辞典中で見出語として採用されており、かつ参照するのがのぞましいと思われるものを示す。

あ

アイアールエフ (IRF)

㊦ International Road Federation

国際道路連盟の英語名の略称。経済発展における道路交通の重要性にかんがみ、アメリカ実業界の寄付行為により1948年にワシントンで結成された。世界における道路および道路交通の進展に寄与することを目的とする非営利の民間団体。ひきつづきジュネーブにも本部が設けられ、各国の道路関係団体が逐次加盟し、世界的な組織となっている。おおむね4年ごとに世界会議を開催し、道路に関する財政・経済・計画・技術・訓練計画など広範な問題が討議される。1973年にはミュンヘンで第7回大会が開催されており、1977年には東京で第8回大会が開催されることになっている。また、これらの中間年次には地域会議を開催し、1964年には東京で第2回太平洋地域会議が開催された。このほか、道路情報の収集・提供・研修など幅広い活動を行なっている。

アイエービーエスイー (IABSE)

= イアブセ。

アイがたげた (I形げた)

㊦ I-beam

㊧ I-Träger (m), Doppel-T-Träger (m)

㊨ poutre (f) en I

熱間圧延によって製造された*I形鋼を用いて製作された橋げた。

アイがたこう (I形鋼)

㊦ I-steel

㊧ I-Stahl (m)

㊨ fer (m) à I

*形鋼の一つで、断面形状がI形のもの。形鋼を参照。

アイティーバイ (ITV)

㊦ industrial television

㊧ industrielles Fernsehen (n), Betriebsfernsehen (n)

㊨ télévision (f) industriel

工業用テレビジョン。道路では、主としてトンネル、主要交差点その他の道路の*交通監視施設として利用される。

アイバ

㊦ eyebar

㊧ Augen (m), Augenmaß (n)

㊨ tête (f) percée, barre (f) à œil

引張り部材として用いられる両端にピン孔を有する細長い鋼板。

アイピー (IP)

= ちゅうかんてん、こうてん、⇒ えんきょくせん。

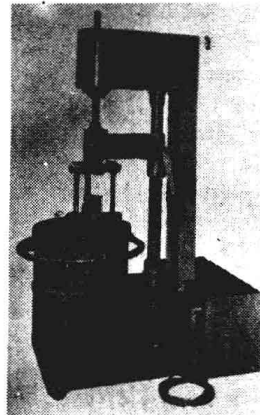
アイビーム (Iビーム)

= アイがたげた。

アイリッヒミキサ

㊦ Lancaster mixer

㊧ Lancaster-Mischer (m)



㊦ malaxeur (*m*) à béton à cuve ouverte
少量の試験用の土およびコンクリートなどを混合する縦形のミキサ。回転する容器の内壁に接するように取付けられた固定羽根が材料を容器の中央に集めるように働き、同時に偏心軸にある回転羽根が遊星運動状に回転してかきまぜる。

あいろ (あい路)

㊦ bottleneck

㊦ Engpaß (*m*), Stau (*m*)

㊦ étranglement (*m*), embouteillage (*m*)
道路交通上のあい路で、そこから下流に進行できる交通量を制約する道路上の地点あるいは区間をいう。

アウトバーン

㊦ Autobahn (*f*)

ドイツの高速道路。1933年(昭和8年)に失業対策上、軍事上、交通近代化の国策のもとに7500kmの基本計画が策定され、1942年(昭和17年)には3860kmが完成し、第二次世界大戦後ドイツ連邦共和国に2110kmが帰属した。1955年(昭和30年)に建設が再開され、1973年(昭和48年)末に5481kmが供用されている。1971年(昭和46年)から15年間で供用延長を8500kmとし、国内のあらゆる地点から40km以内で高速道路に到達できるよう計画された、無料の高速道路である。

アウトリガ

㊦ outrigger

㊦ Ausleger (*m*)

㊦ stabilisateur (*m*)

ホイール式のクレーンやショベルにおいて、作業中の車体の安定を増すために張り出す脚。移動時は車体の中に縮めて収められ、その操作方式には油圧式と手動式とがある。

あおぞらちゅうしゃ (青空駐車)

道路および広場など、車庫以外の場所に*自動車などを駐車すること。いわゆる*路上駐車もその一形態で、*道路交通法および自動車の保管場所の確保等に関する法律は、そ

れらを規制している。

あかみち (赤道)

＝りどう。

あかりまき (あかり巻き)

㊦ open (cut) tunneling

㊦ Bauweise (*f*) im Tagebau,
offene Tunnelbauweise (*f*)

㊦ construction (*f*) du tunnel à ciel ouvert

トンネルの坑口部において、覆工をトンネル工法によらず“あかり”の部分で作ること。

あき

㊦ clear distance

㊦ Mindestabstand (*m*)

㊦ écartement (*m*) minimum

互いに隣りあって配置された鉄筋の純間隔。はりの*引張鉄筋、柱の軸方向鉄筋についてはコンクリートが鉄筋のまわりに十分ゆきわたるようにするために、あきの最小値が定められている。

アークエアガウジング

㊦ arc air gouging

㊦ gougeage (*m*) à arc-air

、⇨ガウジング。

アークストライク

㊦ arc strike

*アーク溶接で最初にアークを発生させること。または母材に瞬間的にアークを飛ばし直ちに切ること。アークストライクを受けた部分は硬化し、傷が生じて欠陥となるが、この傷をアークストライクと呼ぶことも多い。

アクセシビリティ

㊦ accessibility

㊦ Zugänglichkeit (*f*),
Zufahrtfähigkeit (*f*)

㊦ accessibilité (*f*)

*トリップの目的地となる居住施設・教育施設・医療施設・レクリエーション施設などへの到達のしやすさ。ある地域全体とし

ての交通施設あるいは交通機関のサービスの程度、ある居住地域への自動車による接近さらに駐車しやすいなど広い意味で用いられる。定量的にはトリップを完結するに要する時間の逆数、この値をトリップ数でウエイトづけした値などにより示す。

アクセスコントロール

＝しゅつにゅうせいげん。

アクティビティ〔土粒子の〕

⑧ activity.

⑨ Aktivität (*f*), Wirksamkeit (*f*)

⑩ activité (*f*)

土粒子表面の物理化学的性質の度合いであり、土粒子表面の電荷の強さを示す値。土の*塑性指数 (*PI*) と土に含まれている粘土含有量 (2 μ 以下の土粒子の含有量) との比で示される。

アクティビティ = $PI [\%] / \text{粘土分} [\%]$

1.25 以上は活性粘土、0.75 以下は不活性粘土、1.25～0.75 は通常の粘土。

アクティビティ〔ネットワークの〕

＝アロー。

アークようせつ (アーク溶接)

⑧ arc welding, electric arc welding.

⑨ Lichtbogenschweißung (*f*)

⑩ soudure (*f*) à l'arc,

soudage (*m*) à l'arc

金属の接合法の一つで電弧溶接のこと。電気アークで生じる小範囲でかつ大量の熱量を熱源として溶接する方法で、金属の接合に最も広く用いられている。

アグリゲートスプレッダ

⑧ aggregate spreader

⑨ Aggregatspreizer (*m*), senkrechte Krümmung (*f*) (an Bauteilen)

⑩ gravillonneur (*m*)

路盤形成を目的として、路盤用切込碎石や*スタビライザで生産された路盤材を所定の幅、厚さに敷きならす機械。*ベースペーパーと呼ばれるものもある。工事規模の拡大、省力化、仕上り精度の向上などの要求に応

じて使用が増えている。ホップで受けた路盤材を調整ゲートおよびスクリュスブレッダで所要幅および厚さに敷きならすようになっており、パイブレーチングスクリッドで1次締固めを行なうものもある。

あげこし〔橋梁の〕

＝キャンバ。

あげこし〔トンネルの〕

⑧ camber

⑨ Überhöhung (*f*)

*土圧や支持力不足のために沈下する場合に備えて、トンネルの*支保工や覆工をあらかじめ基準位置からあげておくこと。

アーケード

⑧ arcade

⑨ Arkade (*f*)

⑩ arcades (*pl*)

通常、日よけ・雨よけ・雪よけなどのために、路面上に相当な区間連続して設けられる建築物、または工作物をさし、道路法上は、“歩廊、雪よけ、その他にこれらに類する施設”(道路法第32条1項第4号)として、道路の占有物件となりうるもの。アーケードの設置は、防火や交通、および衛生上の弊害を伴うものであることから、国家消防本部長、建設事務次官および警察庁次長の連名で、アーケードに関する設置の最低基準などを定めた“アーケードの取扱いについて”(昭和30年2月1日国消発第72号、建設省発注第5号、警察庁発備第2号)が通達されている。

あざきりず (字限図)

明治20年から30年代にかけて整備された土地台帳(現在の土地登記簿)の付図。縮尺は1/600。現在の*地籍図に相当するが、精度は非常に悪い。字切図とも書く。

アジテータ〔トラック〕

⑧ agitator

⑨ Agitator (*m*), Rührtank (*m*), Nachmischer (*m*)

⑩ malaxeur (*m*) monté sur camion

まだ固まらないコンクリート、モルタル、*グラウト材などをドラムに受け、分離を防ぐため、ゆるやかに回転させておく装置。これをトラックに載せたものをアジテータトラック、オンレールの車体に架装したものをアジテータカーと呼ぶ。

あしば (足場)

㊦ scaffolding

㊧ Gerüst (*n*), Baugerüst (*n*)

㊨ échafaud (*m*)

(1) 作業のための架台。

(2) 高所作業のときに支保材 (主にパイプや細丸太など) で組立てられる、足がかり、通路・運搬のための骨組み。その骨組みに用いられる支保材を足場材ともいう。

(3) 仮設または簡易構造物の土台。

(4) 施工機械の作業地盤。

あしまわり【うち】(足廻り【装置】)

㊦ undercarriage

㊧ Fahrwerk (*m*)

㊨ chenille (*f*)

トラクタなどの走行装置。ホイール式のものにあっては、車輪・ブレーキ・車軸・懸架装置など、クローラ式のものにあっては、トラックリンク・遊導輪・起動輪・上下部ローラ・トラックフレーム懸架装置などで構成されている。

アシュト (AASHTO)

㊦ American Association of State Highway and Transportation Officials

道路に関する研究および技術基準の作成を目的として、アメリカの各州および連邦政府の道路部局によりアッシュ (AASHTO) として 1914 年に設立され、1973 年から交通全般も取扱うこととなり、改組された協会。1950 年代に 100 億円を投じイリノイ州オタワ近郊で実施された舗装および橋梁に関する大規模な試験調査、技術基準の性格をもつ A Policy on Geometric Design of Rural Highways や A Policy on Arterial Highways in Urban Areas の刊行

などがその事業としてよく知られている。

アメリカ各州道路・交通行政官協会。

AASHTO 道路試験を参照。

アッシュ (AASHTO)

㊦ American Association of State Highway Officials

⇒ アシュト。

アッシュどうろしけん (AASHTO 道路試験)

㊦ AASHTO road test

㊧ AASHTO-Straßenuntersuchung (*f*),
AASHTO-Straßenprüfung (*f*)

㊨ essai (*m*) routier de l'AASHTO

*AASHTO によって 1956 年～1960 年にアメリカのイリノイ州オタワで、約 2700 万ドルの費用をかけて実施され、1962 年にその結果が公表された大規模な道路試験。この道路試験では舗装構成をいろいろと変えた *アスファルト舗装区間と、*セメントコンクリート舗装区間より成る、大小五つのループでそれぞれ一定の *軸荷重の試験車による走行試験を実施した。主要な試験成果としては、*サービ指数 (PSI) によってアスファルト舗装、コンクリート舗装の供用成績を評価し比較したこと、また *表層・*上層路盤・*下層路盤などの各層の強さを考慮した厚さ指数 (thickness index) を導入したことなどがあり、それ以降の舗装設計技術の進歩に多大の貢献をした。

アッシュとしつぶんるい (AASHTO 土質分類)

㊦ AASHTO soil classification system

㊧ AASHTO-System (*n*) für die Bodenklassifizierung

㊨ système (*m*) de l'AASHTO de classification des sols

土の工学的な分類法の一つで、*粒度と*コンシステンシによって土を 7 群に分けている。主に道路の *路床・*路盤材料の分類に用いられる。土の粒度とコンシステンシから、*群指数という 0～20 の整数値を定め、これが小さいほど、路床土としての性質が

よいとしている。

アーショのべんえきひ (AASHO の便益比)

⑩ benefit ratio proposed by AASHO

⑪ Nutzverhältnis (*n*) von AASHO

⑫ taux (*m*) de bénéfice par l'AASHO

*AASHO により提案された*費用便益分析における評価基準の一つ。

R_E を現存する道路に関する年間道路利用者費用, R_I を新設または改築される道路に関する年間道路利用者費用, H_E を現存する道路の年間道路費用, H_I を新設または改築される道路の年間道路費用とすれば, 便益比は $(R_E - R_I) / (H_I - H_E)$ で表わされる。

年間道路利用者費用は, A を分析期間中の年平均交通量, L を道路延長, U を台キロ当り道路利用者費用 (*走行費用 + *時間費用の和で, 道路条件・走行条件などによって変化する) とすれば, $365 A \cdot L \cdot U$ で表わされる。

年間道路費用は, C を道路の新設または改築の事業費, K を耐用年数と利率によって算定される*資本回収係数, M を年平均維持管理費用とすれば, $CK + M$ で表わされる。

アースアンカ

⑬ éarth anchor, tieback anchor

⑭ Erdanker (*m*), Bodenverankerung (*f*)

⑮ ancrage (*m*) dans le sol,

ancrage (*m*) dans la terre

地中に削孔した孔内に挿入した*P・C鋼線または*P・C鋼棒などの引張り材の周囲を, セメントミルクまたはモルタルによって固め, これと構造物とを緊結して構造物の*水平抵抗力を増すようにしたもの。*土留壁, *擁壁の転倒防止, 送電用鉄塔基礎の引あげ抵抗用, ドック床板の浮上がり防止, 地すべり防止, 護岸のタイロッド, 載荷試験用アンカなどに用いられる。

アースオーガ

⑯ earth auger

⑰ Erdbohrer (*m*), Tellerbohrer (*m*),
Spiralbohrer (*m*)

⑱ tarière (*f*)

地盤に孔を掘るための機器の一種。土質試験用のかく乱試料を採取するものと, くい孔を掘削するためのものなどがある。比較的軟かい粘性土地盤には適しているが, 砂質地盤に対してはなんらかの対策を施さないと孔壁の崩壊が生じ, 削孔が困難である。

アスコン

= アスファルトコンクリート。

アスタール

⑲ pitch mixture, bitumen mixture,

⑳ tar mixture, asphalt mixture

㉑ Teer-Bitumen-Gemisch (*m*)

㉒ goudron (*m*) bitume

*タールに*アスファルトを20%以下の割合で混合して, 舗装用結合材としたもの。

アースドリル

㉓ earth drill

㉔ Erdbohrer (*m*)

㉕ sonde (*f*) à tarière, sondeuse (*f*)

*アースドリル工法用掘削機械で, 専用機と*ショベル系掘削機のアタッチメント形式のものがある。掘削は*ケーリーバを介してまわされる回転バケットで土砂を掘削充てんし, バケットがいっぱいになったところで引き上げて掘削土砂を排出する。地層によって素掘り工法または泥水工法のいずれも用いることができる。

アースドリルこうほう (アースドリル工法)

㉖ earth drill method

㉗ Erdbohrerbauweise (*f*)

㉘ méthode (*f*) de sonde à tarière

*アースドリルと泥水を用いて*場所打ちぐいを造成する工法。アースドリルを参照。

アスファルタイト

㉙ asphaltite

㉚ Asphaltit (*m*)

㉛ asphaltite (*m*)

*天然アスファルトの一種。石油から変成さ